

令和5年度補正予算（総額5億917万円）を可決

令和5年第5回9月定例会は、9月5日から9月26日まで開催され、議案11件及び報告6件を審議し、最終日には、議案などの採決を行いました。

また、議員12人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に3ページから8ページに掲載しています。



9月定例会

問1 持続可能なまちづくり推進のため、個別の公共施設の再編や長寿命化等について具体的な方向を示した西条市個別施設計画において、再編が検討された施設があったが、進捗状況はどのようなになっているのか。
また、展示内容が重複している施設の集約については、どのようにしているのか。
更に、今後の対応方針はどのように考えているのか。

社会教育系施設の再編に向けた対策を！

1 社会教育系施設の再編について
(一般質問)



佐伯利彦議員

西条自民クラブ

答

再編が必要とされた社会教育系施設については、令和4年4月に八堂山復元住居の除却を完了し、遺跡の場所を示す平面表示を行っている。

また、こどもの国を用途変更し、産業情報支援センター、市民活動支援センター等の複合化による「ひと・夢・未来創造拠点複合施設」として改修し、施設再編を完了している。

更に、丹原ふるさと歴史館については、各社会教育施設に收藏されている資料の一部を保存管理できる文化財収蔵施設とすることを予定している。

展示内容の重複については、旧西条勤労福祉会館に集約していた出土品などの埋蔵文化財は、西部支所3階に移して埋蔵文化財の収蔵及び整理作業を行っている。

また、旧自治体が運営していた郷土資料施設などは展示内容が重複していた面もあり、学芸員で構成するワーキンググループの検討に基づき所蔵資料の整理集約を行い、新しい管理体制を構築し、西条郷

土博物館、西条市こどもの国、小松温芳図書館資料室などで收藏されていた民具や農具などの民俗資料は、東予郷土館と丹原ふるさと歴史館に收藏した。

展示や収蔵管理については、収納スペースの確保や入館者数の減少などの課題があり施設の再編と並行して取り組みが必要があるため、施設の枠を超えて各所で企画展を行うなど、展示場所を広げること、多くの市民が貴重な資料に触れる機会となり、入館者増に結び付くと考えている。

個別施設計画の今後の対応方針については、令和8年度までの第1期の施設再編などの取組に注力するとともに、第2期計画で対応すべき公共施設の抽出から検討の方向性を定めていきたい。

問2

市之川公民館の鉱山資料室から考古歴史館に展示物を移設する考えはあるのか。

答

市之川鉱山跡は、かつては国内最大級の輝安鉱山であり、世界的にも高

い評価を受けていた。採掘された輝安鉱の結晶や旧鉱山で使用されていた数々の採掘道具、多くの資料を現在は市之川公民館鉱山資料室で收藏・展示している。しかし、鉱山資料室は、老朽化が著しく進んでいることから、個別施設計画においても保存展示の在り方を検討することとされているため、同様の展示施設であり、位置的にも市之川に近い考古歴史館の一部を利用し、貴重な市之川鉱山資料を集約して保存展示を行うことで多くの人に見学してもらえと期待している。

展示方法などについては、今後じゅうぶんに検討していきたい。



市之川公民館の鉱山資料室